

羽生市議会議長様

2020年 8月 5日

羽生市議会議員 齋藤万紀子



行政視察報告書

下記の通り実施したのでご報告いたします。

## 記

- 1、視察日程 2020年7月30日
- 2、視察項目 東京都町田市「子どもセンターまあち」にて【子どもにやさしいまちづくり】
- 3、視察概要
  - ・町田市資料説明
  - ・質疑応答
  - ・施設見学
- 4、説明者
  - 町田市児童青少年課職員
  - 子どもセンター職員

## 行程

2020年7月30日

羽生市ー 久喜ー 新宿ー 町田ー 「子どもセンター」まあち

鉄道運賃(現金) 3120円(1560円×2)

駐車料金 500円

2020年7月30日、東京都町田市へ「子どもにやさしいまちづくり」の視察に行ってきました。子どもの権利条約が国連で採択されて昨年30周年を迎えましたが、町田市は日本において「子どもの権利」を自治体として実践しているトップランナーです。

子どもの権利については「人権教育」と一緒にされてしまったり、また子どもに権利なんて与えたらわがままになる、などとも言われますが、町田市では1996年に「町田市子ども憲章」が制定され、ユニセフとも協力し、子どもたちの意見を取り入れたまちづくりが行われており、その取り組みについて報告していきます。

町田市がおこなっている子どもにやさしいまちづくり

## 【その①子どもの居場所づくりの推進】

見学させてもらった町田市の子どもセンター「まあち」です。

全国的に児童館や公共施設が減りつつあるなか、町田市では「家」と「学校」以外に子どもの居場所（自分の意思で選び遊びに行ける）を確保するため、

・子どもセンター5カ所

・子どもクラブ6カ所

・冒険遊び場4ヶ所（「自分の責任で自由に遊ぶ」冒険・挑戦・体験を全身で体感できる子どもの遊び場。木登りや穴を掘っての泥遊び、基地づくりなど、その場の環境を活かして自由に遊びを考え、楽しむことができる）

・放課後子ども教室42カ所

・子ども創造キャンパスひなた村

があり、小学生から高校生まで「家」と「学校」以外で過ごせる居場所が歩いていける距離に存在。

なんと無料の音楽スタジオやダンススタジオ、調理室（バレンタイン前など予約でいっぱいになるそうです）、広々とした体育館まで完備。

子どもセンターの特徴は、利用する子ども自身が「子ども委員会」を作ってルールを決めて運営をしていること。

小学生向けの子どもクラブは18時まで、中高生向けの子どもセンターは21時までの利用と決まっていますが、どう利用していくか自分たちで考え、意見を発信し、その機会の確保という意味でも「子ども委員会」のような場はとても重要である。

## 【その②子ども、若者の参画】

市役所の事業評価は基本的に職員によって行われており（もちろん羽生市でも）、たいてい評価はAかBが多いですが、町田市の市民参加型事業評価には高校生も加わってる。そして例えば市の図書館事業は？衛生事業は？道路管理は？…残念ながら評価は全て「改善すべき」！けれど未来のために忖度なしに評価していくとは重要なことだと思し、未来のためにも若者の考えやアイデアが反映される仕組みは必要である。

また若者が市長と語る会や、市の長期計画策定にも子ども、若者が参加する。

こうやって子どもの時から自分の居場所があり、見守ってくれる大人がいて、自分で考えて意見を述べる場が、自分の住んでいるまちにあるということは、羨ましいなと思うと同時に、そうやって成長してきた子どもたちが日本にいるんだ、と思うと、とても希望でもあると感じた。

町田市では市長が率先して子どもにやさしいまちづくりを進めており、

また、これらの制度をつくりサポートしていく行政側で、説明をしてくださって市職員さんたちも、すごく生き生きと誇らしげだったのが本当に印象的だった。

昨年発表されたユニセフの「子どもの幸福度ランキング」では、悲しいことに日本の子どもの精神的幸福度は38カ国中37位との結果が報告された。私たち大人はその結果を真摯に受け止め、未来をつくる子どもたちの環境の改善を図る責務がある。この町田市の視察をぜひ羽生市のまちづくりにしっかりつなげていきたい。